

【テーマ2：校内研修推進パッケージの開発と次世代型研修に係る研究】

大阪府教育センター

実施体制

- ・大阪府教育センター(事務局)
- ・大阪府教育センター附属高等学校(モデル校)
- ・大阪府立摂津高等学校(モデル校)
- ・吹田市教育委員会(推進協議会委員)、吹田市立第六中学校(モデル校)
- ・柏原市教育委員会(推進協議会委員)、柏原市立国分小学校(モデル校)
- ・大阪教育大学(指導助言・評価、推進協議会委員)

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 校内研修活性化に向けた指導・支援の取組みについて、学びやノウハウが積み上がりにくく、市町村間、学校間で取組みの格差がある。
- ◆ 他校の研究授業に参加したくても、移動時間も含めた時間の確保が難しく参加できないことがある。

モデルの概要

- ◆ 校内研修の活性化に向け、モデル校での課題把握、テーマ設定、研修実施、効果測定・評価までのサイクルについて、学識経験者による指導助言を受けながら、年間を通じて支援を行う。モデル校の取組みや府の支援について動画コンテンツ化し、府内に普及する。
- ◆ 校内研修の実施においてはオンライン配信を行うなどハイフレックス型で行うとともに、VRやメタバースなど次世代のICTと教育の融合について研究を進める。

活用する技術・ツール等

- ◆ 360度カメラ、PTZカメラ、タブレット端末、VRゴーグル、Web会議サービス(Zoom)、360度映像ライブ配信システム(Remote Field)、オンラインスライドショー作成ツール(Googleスライド)

高度化に資する取組み

◆校内研修の支援、取組みの動画コンテンツ化

4つのモデル校において、年間を通して(1)課題把握→(2)テーマ設定→(3)研修実施→(4)効果検証・評価までのPDCAサイクルに沿った支援を行い、その様子を記録した映像を、各校30分程度の動画コンテンツとしてまとめた。

◆ハイフレックス型校内研修の実証実施

現地で行われる校内研修に、遠隔地から参加できるよう、ICT環境の整備と実証実施を行った。本実証実施の特徴は、会場として「現地会場」と「Zoom会場」だけでなく、「大阪府教育センター(FTR)」を加え、3つの会場を相互に接続して実施した。



※FTR(Future Training Room)オンライン指導や効果的なICT活用に対応する研修室。壁一面に教室の様子が投影され、臨場感を持って授業観察を行うことができる。

◆VR活用コンテンツの開発

360度カメラを利用して、教員研修や、授業で活用できる動画コンテンツを10本開発した。VRゴーグルを用いて視聴することで、リアルな体験ができる。

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◇同コンテンツを普及させることにより、各校の管理職、校内研修担当者や市町村教育委員会指導主事などが同コンテンツをそれぞれの実態に合わせて活用しながら、校内研修を充実させることが期待される。また、地域、学校によらず、校内研修を活性化させることにつながると考えられる。
- ◇FTRを活用したハイフレックス型校内研修を実施することで、(1)学びの機会の保障、(2)多様なチャンネルの提供による個別最適な学び、(3)自由に語り合える場づくりによる協働的な学びを実現することができ、実施校や他校の参加者ともに学びが深まる。
- ◇危険を伴う場所や物、実際に行くことが困難な場所であっても、360度様々な角度から、学習者が見たい方向を見ることができ、よりリアルな体験を得ることができる。